

銀次郎～銀太郎山行記録



目的地	木六山・銀次郎・銀太郎（五剣谷岳）	期 日	平成17年6月5日（日）
山人	笠原正雄単独	特 記	完全単独の旅、五剣谷岳には届かなかった。

地 点 名	(着)～(発)	天候	記 事
与 板	午前3:45発	曇	3時起床。湯茶を用意し、少し食べると出掛けるまで40分かかる。
悪 場 峠	5:15～5:45	〃	峠開通記念碑の駐車場を過ぎてから左のカーブミラーを経て、右にコンクリート壁があり、かつその上の杉林が終わり、左カーブ手前が入山口。
仏 峠	6:05	〃	石の小さい祠。この後、歩きにくいトラバース道となる。
水 無 平	6:15	〃	チャレンジランドへのT字分岐を左へ。緩やかな登りの広い登山道へ。前回は草で道が隠れていたが、今回は駆り払い直後だった。
焼 峰 の 神 様	6:45	曇 時々 小雨	序々に傾斜が増し、九十九折れの急登、そして尾根道のここに来る。
木六・銀次郎分岐	7:20～7:30		木六山頂へのショートカット分岐を右に見送り地図ルートを進む。トラバース道下に雪が現れる。雪を見ると何故か緊張感が走る。ここも刈払いがされていて前回より歩きやすい。ここで沢水が得られる。分岐で休む。
七 郎 平 露 営 場	8:30～8:45		少し食べる。ブヨが出てきた。七郎平は雪があった。夏道探しに少し手間取った。帰路迷うと厄介なので、赤紙テープでマーキングする。
銀 次 郎	9:40～10:05	曇	この1ピッチはやはり長い。けり落した小石が長い時間音を立てて落ちるような急傾斜道が1箇所ある。ただし草木で怖さは消されている。銀次郎手前で岩交じりの稜線に上がる。曇りで見えないが絶景を予感する。
銀 太 郎	10:55～11:00	霧雨	大きく降ろされて登り返す。先の五剣谷岳は雲のバールの中、20m先から低木と草のヤブ道となっている。今日はここまでで戻る。
銀 次 郎	11:40～12:40	曇	ウグイスが鳴いている。岩場に座り昼食。家と鳴倉山の芳子さんに電話する。時折ガスの切れ間から栗・五剣谷・日本平方面の裾が少し見えた。特に栗・五剣谷方面は沢筋に雪が付いていて見事なデティールだ。
七 郎 平	1:20	〃	マーキング回収。ここまでの道中、左前方に山肌が削られた切歯状の尾根が伸びている。
薄 陽 差 す	1:40	〃	樹間から今日はじめて日差しを見る。しかしすぐ曇る。
木 六 山 頂	2:30～2:45	〃	今度は水無平分岐を右に見送り3分の登りで木六山。三角点に腰掛ける。
ショートカット分岐	3:00	〃	グシノ峰分岐から地図ルート分岐までは刈払いは無く鬱そうとしている。
水 無 平	3:30	〃	チャレンジランド分岐で、朝は立てかけてあった枝が位置を変えていた。誰かが木六まで入山したのだろう。
悪 場 峠	3:50	〃	水無平から10分で仏峠。誰の居ないP地点でパンツまで全て着替える。
与 板 着	6:00	〃	帰宅して床屋へ行く。

昨夏に木六山を登った。数年ぶりの山行で、暑かったが気分よく、一人きりの山頂で1時間半も過ごした。その際先へ伸びる登山道が気になった。方々の山で出遭った人たちに聞いて更に興味を抱き今回の入山となった。曇で展望は無かったが、「川内の山を知らずして越後の山を語る無かれ」の言葉の通り、銀次郎の手前のヤセ尾根に上がれば、絶景を予感させた。あわよくば五剣谷岳までと思っていたが、俺の脚では12時間以上が必要である。ヤブコギは未体験だが、いつか挑戦して五剣谷岳まで行ってみたいと思っている。